

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[36]歳、 勤続年数[18]年、 現場経験年数[1] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[32]歳、 勤続年数[14]年、 現場経験年数[11]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[21]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[1]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	B	梯子車の作業姿勢をとった	
経過 2	A、C	梯子先端の搭乗した	
経過 3	B	梯子基部リフター付近にてホースの結合作業	
経過 4	B	ホース結合作業を終え、車両から降りた	
経過 5	C	先端操作により梯子を伸梯した	経過 4 とほぼ同時
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

[illegible]

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

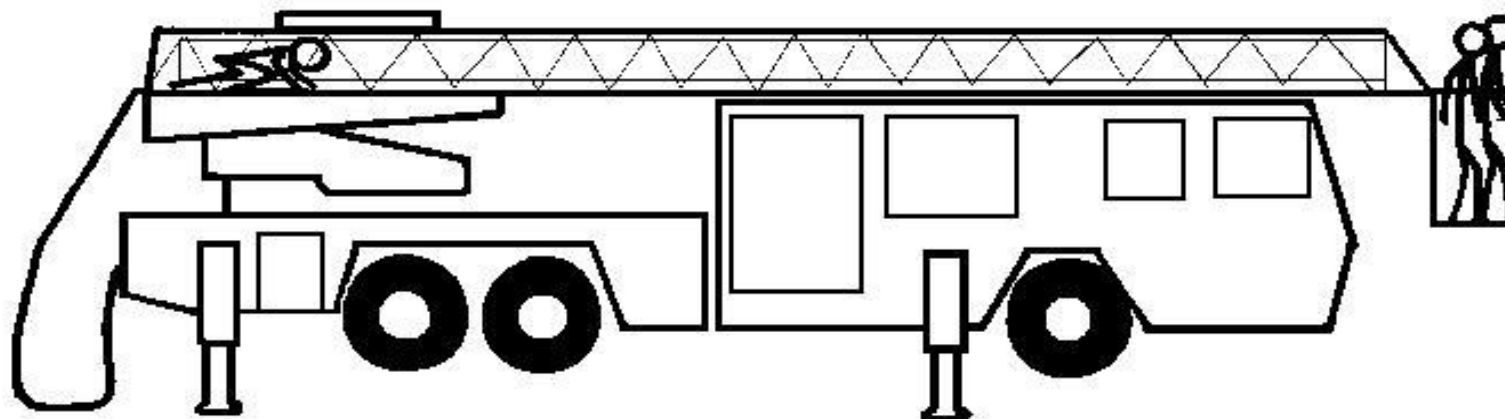
○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

中高層建物火災ヒヤリハット事案

機関員は、ホース結合のため
梯体内に入り作業中。

隊員は、先端操作により梯子
を動かそうとしている。
(機関員への確認無し)



・発生日時　：平成１９年７月６日　１１時頃

経過	現場の状況	隊長A	機関員B	隊員C	備考
		隊員／消防司令補 ・年齢 36 歳 ・勤続 18 年 ・現場 18年 ・同様の活動: 1, 2回	隊員／消防士長 ・年齢 32 歳 ・勤続 14 年 ・現場 11年 ・同様の活動: 年数回	隊員／消防士 ・年齢 21 歳 ・勤続 4 年 ・現場 1 年 ・同様の活動: 初めて	
1	耐火造7階建てマンションの上層階が延焼中	梯子車で現場到着（マンション前面道路上に部署）			
2		梯子車のバスケットに搭乗した	ホースを結合するため、梯子上で作業姿勢をとった	梯子車のバスケットに搭乗した	先端(A,C)と基部(B)は連絡を取っておらず、ほぼ同時に行った。
3			梯子基部リフター付近で、ホースの結合作業		
4			作業を終え、車両から降りた	下命を受け、先端操作により梯子を伸梯	
5					
◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？					
○直接的な原因：行動の意思決定及び行動の実行に問題があった。 ・ たまたま、負傷事故にならなかった。					

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
（心理・体調について） ・早く現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 （装備・資機材について） ・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。 （活動環境について） ・野次馬が多かった。 （指揮・管理について） ・指示内容に誤り・偏りがあった。 ・隊員の連携が不十分だった。 ・隊員が不足していた。